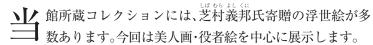
# 同時浮世絵名品選開催

美人画・役者絵を中心に







浮世とは戦国の世が終焉を迎え、平和となった現世をひたす ら謳歌する生き方を意味します。それまでの無常観の憂世から 決別した態度、すなわち、現世を楽土と見る考え方が芽生えまし た。17世紀後半、それが近世初期絵画の世界にも投影されて、浮世 を画題とした浮世絵が成立しました。

浮世絵は、美人画、役者絵、風景画、花鳥画、相撲絵などあります が、今回は美人画・役者絵をご覧いただこうと思います。東洲斎写 楽「四世岩井平四郎の乳人重の井」・礒田湖龍斎「丁字屋内」などを 展示します。浮世世界をお楽しみください。



「四世岩井半四郎の乳人重の井」東洲斎写楽(前期)



とうせい さんじゅうろく かせん うたがわくにさだ 「当世むすめ三十六花撰さくら」歌川国貞(前期)



「流光花撰(杜若)」歌川国貞(後期)



「丁字屋内」礒田湖龍斎(後期)



伊川津貝塚を発掘した人類学者小金井良精(中央) 大正11年

# 渥美半島の歴史 考古一発見の歴史

# ■企画展示室2

# ■9月28日(日)まで開催

遺跡の宝庫、渥美半島は江戸時代から注目され、明治時代 終わりからこぞって発掘調査が行われ、その出土遺物が 学会に多くの影響を与えました。吉胡・保美・伊川津貝塚、 東大寺瓦をはじめ学会に影響を与えた遺物を展示します。



☎22局1720 http://www.taharamuseum.gr.jp

